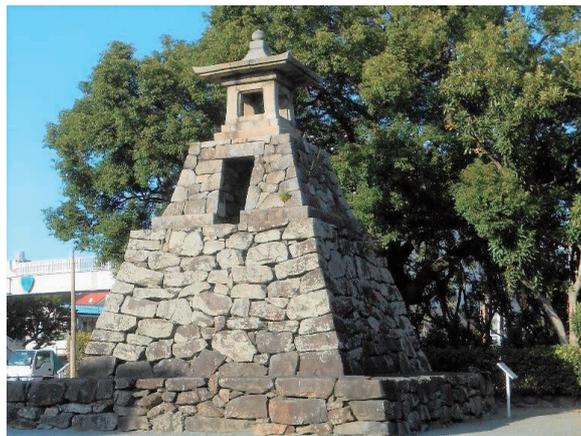


# 東区歴史街道を往く



歴史  
歩・歩・歩  
さんぽ

Vol.7

東区歴史ガイドボランティアさんぽ会のおすすめスポット  
 ふくおか市政だより東区版に掲載

市政だより 東区



掲載月	タイトル	ページ	掲載月	タイトル	ページ
R3年7月	大嶽神社	… 3	R4年7月	鯨学校跡地の碑	… 14
R3年8月	福岡第一飛行場の「建設の石碑」	… 4	R4年8月	礎石と元寇防塁	… 15
R3年9月	筥崎宮の高燈籠	… 5	R4年9月	ダンベ船とダンベ弁天橋	… 16
R3年10月	香椎操車場と千早陸橋の跡	… 6	R4年10月	武内神社と巻尾神社	… 17
R3年11月	福神の信仰「名島弁財天」	… 7	R4年11月	「あずみ族」のルーツ『今宮神社』	… 18
R3年12月	志賀の白水郎「荒雄」物語	… 8	R4年12月	小さな砂嘴の「雁の巣鼻」	… 19
R4年2月	湯谷山薬師堂境内	… 9	R5年2月	長塚節の歌碑	… 20
R4年3月	木造亀山上皇尊像奉安殿	… 10	R5年3月	馬出に残る「福岡市内線」跡	… 21
R4年4月	多の津三丁目の「追分石」	… 11	R5年4月	松崎の三面地藏と筑前竹槍一揆	… 22
R4年5月	多々良川河畔遊歩道の歴史旧跡巡り	… 12	R5年5月	西戸崎にあったアメリカの痕跡	… 23
R4年6月	西戸崎の「博多海軍航空隊跡」	… 13			

※本文の内容は市政だより掲載時点のものです。

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 大嶽神社

おおたけ

加藤 徳生

大岳バス停近くの小高い山の上に、志賀海

神社の撰社の一つ大嶽神社がありま

す。創建は不詳ですが、もとも

とこの神社は山頂の大岩の上に建てられ、風の神様である「志那津比古神」と「志那津比売神」、神功皇后の家来として活躍した「大浜宿禰」、元禄年間に京都伏見稻荷大社より

合併した「保食神」の四本殿が改修されると、大嶽稲荷講社（信者による団体）が結成されるなど、福博の街から多くの人の尊崇を集める神社となりました。さらに、昭和12（1937）年の西戸崎

改修後100年が経過し、老朽化や福岡県西方沖地震による損傷で祭典に支障を来すようになったため、昨年、本殿が建て替えられました。うっそうとした木々に囲まれた参道の110段の石段（左写真）には、毎年スポーツ選手がトレーニングに訪れ、福岡のアスリートの聖地とい

われています。



現在の大嶽神社



# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 福岡第一飛行場の「建設の石碑」 山田 次男

昭和11（1936）年、糟屋郡和白村（現在の東区）の雁の巣に、当時日本最大規模の民間国際空港「福岡第一飛行場（雁ノ巣飛行場）」が開港しました。大日本航空株式会社によってアジア各国への路線が運行され、日本の交通産業の要衝として期待されていました。



しかし、第二次世界大戦中は軍用空港となり、戦後はアメリカ軍に接收され「ブレディ飛行場」の名称で運輸部隊の飛行場として使用されます。その後、施設は閉鎖され、昭和52（1977）年に全面返還されました。

「建設の石碑」が建立されています。石碑には「白砂青松の丘博多湾に面したる雁の古里を選び水陸兼用の国際飛行場を建設した」と書かれ、建設に関わった人々の思いが刻まれています。

過去の面影を残すものはほとんど無くなりましたが、旧正門があったとされる付近に「建設の石

また、石碑近くには「球磨号遭難者慰霊碑」があります。この慰霊碑は、昭和14（1939）

年に飛行場で発生した、プロペラ機・球磨号離陸事故の犠牲者6人を追悼するものです。

現在、飛行場跡地には雁の巣レクリエーションセンターや福岡航空交通管制部などの施設が整備されています。



球磨号遭難者慰霊碑



建設の石碑

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 笠崎宮の高燈籠

奥永 茂晴

国道3号から笠崎宮に向かう参道の入り口に石垣造りの高燈籠Ⅱ写真Ⅱがあります。以前あった大鳥居は撤去され、高燈籠が笠崎宮参道の入り口のシンボルとなっています。

高燈籠は江戸時代の文化14（1817）年に造られ、夜には漁師たちが当番制で火をと

もしたといわれています。高さは約6段で、箱崎浦（現在の箱崎一・二丁目付近）の漁師が漁から戻る際の目印として造られて、灯台の役割を果たしていました。しかし、長年の風雨により朽ち果てたため、明治15（1882）年に現在地に移し、上部を石造りにしました。現在の高燈籠は昭和43（1968）年にさらに修築されたものです。

明治の初め頃、燈籠の



和になって福岡水族館（1957～1968年）などができ、多くの人が訪れました。近くに来たときには、高燈籠を眺めながら、この辺りの移り変わりに思いをはせてみませんか。

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 香椎操車場と千早陸橋の跡

森永 徹

現在、千早四・五丁目には多くの高層マンションが立ち並んでいます。ここには以前、

旧国鉄の「香椎操車場」がありました。操車場とは、主に車両の入れ

替えなどを行う停車場のことです。また、同操車場を横断する形で「千早陸橋」が架かっていました。

香椎操車場は昭和17（1942）年に、博多臨港線の分岐点として、香椎駅西部待避線の名称で開設し、昭和34年に香椎操車場に改称されました。博多・吉塚地区の貨物取り扱い設備が集約されるな

ど、福博のまちの産業発展に大きな役割を果たしたといわれています。

しかし、時代とともに役割を終え、昭和59年には香椎操車場の使用は停止されました。

その後、香椎副都心土地区画整理事業により、操車場跡地の中心部には、平成15（2003）年にJ

R 千早駅が、翌年に西鉄千早駅が開業しました。昭和35年に完成した千早



陸橋は、三角形の橋桁が特徴的な約500坪の陸橋でした。千早と若宮方面を結ぶ生活に欠かせない陸橋でしたが、同区画整理事業に伴い、平成16年に撤去されました。

現在は、千早中央公園（千早四丁目）に、陸橋の一部を活用したモニユメントが残っています。



上：香椎操車場跡地（H15年）、右：千早陸橋（H15年）。提供：独立行政法人都市再生機構

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 福神の信仰「名島弁財天」

安部 光征

神功皇后は、三韓に遠征する際、名島海岸から宗像三女神へ遠征の無事平穩を祈願しました。その後、無事に帰還したため、お礼としてその地に名島神社を建立し、宗像三女神を祭りました。

弁財天は、七福神の中で唯一の女神で、財宝などの徳がある神として信仰されていました。

宗像三女神の一人、市杵島姫命は弁財天と同一視されています。

名島神社に弁財天が祭られた経緯は諸説あります。『名島旧跡記』には、市杵島姫命が、安芸国（現広島県）厳島神社に弁財天として祭られたことに倣ったと記されています。

神社に祭ったという説もあります。

中世には、七福神の信仰が盛んになり、名島神社は仏名に変えて「名島弁財天社」と称しました。その後、明治元



宋栄寺境内には弁財天の使いとされる蛇が多く祭られている



琵琶を弾ずる弁財天

また、天台宗慈覚大師円仁が、唐から帰国する際、弁財天に祈願し無事帰国できたとして、名島（1868）年の神仏分離令により、名島弁財天は名島神社横の宋栄寺に移され、現在も蓄財の神として広く信仰されています。

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 志賀の白水郎「荒雄」物語

古賀 偉郎

奈良時代前期の神亀

(724〜729年)

の頃、九州を統括していた大宰府は、対馬に食料を送るため、宗像郡の白水郎（漁師）である津麻呂に、船の舵とりを命じました。

しかし、津麻呂はすでに年老いて、対馬まで荒波を渡って行くだけの自信がありませんでした。思い悩んだ津麻呂は、志賀の白水郎



である荒雄に相談しました。

話を聞いた荒雄は「住むところは異にするも、長年同じ海で暮らす者同士、何でこの頼みを断れようか」と快く代役を引き受けました。

荒雄は、対馬に向かうため肥前松浦美彌良久（現在の五島福江島三井楽）の崎を出発しましたが、船出して間もなく暴



風雨が彼を襲いました。必死で船を操る荒雄でしたが、力尽き帰らぬ人となってしまうました。

志賀島の国民休暇村駐車場にある万葉歌碑Ⅱ写真Ⅱには、「大船に小

舟引きそへかづくとも志賀の荒雄にかづきあはめやも」と刻まれています。

詠み人は大宰府長官の山上憶良で、「大船に小舟を加えて多くの人々が海に潜ったとしても、志賀の荒雄に会えるだろうか、いや、会えはしない」という意味です。

荒雄を失った妻子をはじめ、残された人々の心の葛藤や悲しみを今に伝えていきます。

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 湯谷山薬師堂境内

柳瀬 英昭

旧上和白村（現在の和白東）に湯谷山薬師堂があります。

教を布教した僧侶・行基が造ったともいわれています。

者は不明ですが、庄屋の孫右衛門が亡くなる前に、大乘経の経文を一字

この薬師堂は、昔、和白の人々が神様に捧げるお汐井しおいを取りに通った道「お汐井路」から少し林に入ったところにあります。

薬師堂の傍らには、長さ120センチ程の「一字一石塔」**II左写真II**が横たわっています。表には「奉納 大乘一字一石 安永三甲午年八月吉祥日」、裏には「法名 還山自休居士謹拝干寫 俗名 当村住 安河内孫右衛門」と刻まれています。

和白白地区には、このようなお堂や石碑が今も多く残っています。一度散策してみてはいかがでしょうか。



薬師堂（右）と地藏堂（左）



安永3（1774）年に造られたこの石塔の作



木造亀山上皇尊像奉安殿<sup>ほうあんてん</sup>

奥永 茂晴

第90代の天皇・亀山上皇は、鎌倉時代中期の元寇の際に、敵国の降伏と博多の街の安寧を全国の社寺に祈願しました。

多出身の木彫家・山崎朝雲<sup>ちやううん</sup>が、明治35(1902)年に製作したもので、東公園(博多区)内にある同上皇の銅像の原型になりました。

読売新聞社が取得し、東京の「よみうりランド」で公開していました。平成20(2008)年、尊像は、上皇にゆかりの深い管崎宮に同社から寄贈されました。九州国立博物館(太宰府市)で修復され、平成21年に県の文化財に指定されました。平成23年には、市民の皆さんからの寄付により、管崎宮の境内に奉安殿が建設されました。尊像は、奉安殿内に安置され、同年10月から一般に公開されています。

管崎宮の楼門付近にある奉安殿に、亀山上皇の木彫りの尊像Ⅱ左下写真Ⅱが安置されています。この尊像は、高さ約6尺、重さ約1トのヒノキ製です。博

明治時代、全国各地で銅像が建立されましたが、原型像は銅像の完成後に破棄されることが多く、現存している例はほとんどありません。亀山上皇の尊像も、明治37年に銅像が完成した後、一時行方が分からなくなりりましたが、その後、

管崎宮境内には、元寇由来の施設が他にもあります。一度訪れてみてはいかがでしょうか。



境内にある奉安殿



管崎宮境内には、元寇由来の施設が他にもあります。一度訪れてみてはいかがでしょうか。

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 多の津三丁目の「追分石」

森永 徹

北九州を起点に博多を経由して佐賀県唐津市に至る道を、唐津街道といえます。九州の

があります。石の表には「石いの大神宮」、裏には「再建 嘉永七年」と刻まれています。

主要な交通路として江戸時代に整備され、福岡藩や唐津藩の参勤交代などに利用されました。

「大神宮」は、ここから北東へ約8キロの所にある伊野天照皇大神宮（久山町）のことを指します。伊野天照皇大神宮は、古くから「九州の伊勢」とも呼ばれ、神殿や建物の配置も伊勢神宮を模して築造されています。

多の津三丁目の旧唐津街道沿いには、街道の分岐点に道しるべとして置かれた「追分石」

筑前福岡藩第六代藩主の黒田継高が、福岡の

人々が大神宮に参拝するための新しい道を整備しました。この道は、箱崎から多々良川を渡り、土井を経由し大神宮へ続きます。道中の案内として同様の道しるべが多々良小学校前にも残っています。



多の津三丁目の追分石



多々良小学校前の道しるべ



伊野天照皇大神宮（久山町）

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 多々良川河畔遊歩道の歴史旧跡巡り

平山 勲

多々良川に架かる名島橋近くに「渡場道」の看板があります。

昭和初期頃まで、箱崎と名島の間を渡し舟が通っており、名島橋のたもとが「渡場」となっていました。

渡場があった辺りから遊歩道を上流へ歩いていくと、左に高台が見えてきます。この地



には戦時中、高射砲陣地があり、敵の戦闘機から名島橋、名島火力発電所等を守ったといわれています。

さらに歩いていくと、「いにしへはここに鑄物師の跡とめて 今もふみみる たたら瀉かな」と刻まれた歌碑があります。左写真。この歌は、

戦国時代の知識人であり、豊臣秀吉の家臣でもあった細川幽斎が詠んだ歌です。秀吉の九州遠征の陣中見舞いに、多々良



淵を訪れた際、川沿いにある渡来人の鉄器工房や、京都の名寺の鐘がこの辺りで作られたことなどに思いを寄せて詠んだといわれています。

さらに上流に向かうと、左に松崎の配水タンクが見えてきます。この場所は「陣の越」といわれています。南北朝の時代に、足利尊氏がここに陣を敷き、多々良浜の戦いで劣勢を跳ね返し勝利しました。この勝利をきっかけに、京都に進軍し、室町幕府を開いたといわれています。

遊歩道を散歩しながら、郷土の歴史に思いをはせてみませんか。

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 西戸崎の「博多海軍航空隊跡」

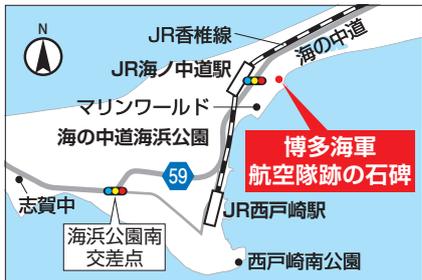
加藤 徳生

国営海の中道海浜公園管理センターの横に「博多海軍航空隊之跡」と刻まれた石碑が建っています。左写真。

昭和初期頃、旧日本海軍は各地に練習航空隊を開設しました。昭和15（1940）年、西戸崎にも水上機の練習航空隊が設置され、「博多海軍航空隊」と

呼ばれていました。ここでは、水上偵察機の実用訓練を行い、修了すると実空戦部隊に配置されました。

終戦直前の昭和20（1945）年には、特攻隊が編成され、この地を基地とし、多くの兵士が熊本県や鹿児島県から出撃しました。また、水上機部隊は沖縄への迎撃作戦にも出撃したと、石碑の裏面に記されています。戦後、跡地には米軍が駐在し「キャンプハカ



海に向かって伸びる「すべり」

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 鯨学校跡地の碑

山田 次男

奈多地蔵堂（奈多二丁目）の隣に、「鯨学校跡地」と刻まれた石碑があります。

明治6（1873）

年に創立された奈多小学校（現在の和自小学校）は、開校当時、校舎が無く、寺の本堂を借りて授業が行われていました。しかし、本堂の傷みがひどくな



石碑の横に立つ奈多地蔵堂

県に寄付をしました。その寄付金により、瓦葺きの立派な校舎が建てられ、地元では永く「鯨学校」の愛称で呼ばれました。

奈多自治会は、これを後世に伝えようと、令和2年に石碑を建立しました。石碑には、鯨学校と呼ばれるようになった理由や、建設当時に県から贈られた感謝状の原文が刻まれています。



ずだった明治14（1881）年、奈多沖に突然クジラが現れます。地元の漁師たちは、苦勞の末、暴れるクジラを捕獲しました。そして、そのクジラの肉を売って出た利益を、新校舎建設に充ててもらうため福岡



県からは感謝状のほか、銀盃が贈られたと記されています

## 碇石と元寇防塁

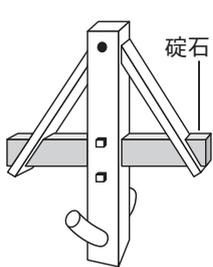
奥永 茂晴

宮崎宮の本殿近くの  
一の鳥居をくぐると右  
手に、鎌倉時代、二度  
にわたって日本が元  
(モンゴル)に襲来を  
受けた元寇ゆかりの史  
跡「碇石」があります。

元の軍船に使用され  
ていたと伝えられてい  
るもので、県の指定有  
形文化財です。



碇石 (手前) と元寇防塁の再現 (奥)



碇と碇石の模式図



この碇石は、昭和15  
(1940)年、博多湾  
沖から出土しました。長  
さ172cm、推定重量  
250kgの凝灰質砂岩製  
で、中央部が最も広く、  
両端がやや狭くなってい  
ます。船を静止するため  
の木製の碇を海底に沈め  
る重しの役目を果たして  
いました。

この碇石は、昭和15  
の侵略から日本を守るた  
め築かれた元寇防塁を再  
現した石垣があります。  
これは、元寇防塁の石  
で造られています。西  
南学院高校(早良区百道  
浜一丁目)裏に築かれて  
いたものです。

同校裏の元寇防塁は、  
平成元年のアジア太平洋  
博覧会福岡(よかトピア)  
のパビリオン建設のた  
め、取り払われましたが、  
後日、同校出身の宮崎宮  
宮司が「貴重な歴史を留  
めたい」と譲り受けまし  
た。

近くに寄られた際に  
は、碇石や防塁を見なが  
ら、当時に思いをはせて  
みませんか。

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## ダンベ船とダンベ弁天橋

安部 光征

大正9（1920）年、東洋一と呼ばれた名島火力発電所が稼働を始めました。火力発電所の候補地が検討さ

ら昼夜を問わず黒煙が上がり、国力を象徴していましたが、老朽化により昭和35（1960）年に廃止されました。

路は埋め立てられ、ダンベ船やダンベ弁天橋を見ることはできませんが、

れる中、名島に決まった理由は、西戸崎、姪浜炭鉱に近く、燃料である石炭を鉄道や船舶で運ぶのに便利な場所であったからといわれています。当時は、高さ61呎の大煙突4本か

石炭を発電所に運ぶ船はダンベ（団平）船と呼ばれていました。名島火力発電所で使用されていたものは、幅5呎・長さ10呎・高さ5呎ほどの大きさで、前後に2呎の甲板があり、後部には畳1帖程度の木の舵が付いていました。

名島一丁目Ⅱ地Ⅱの道は「ダンベ弁天橋通り」と名付けられるなど今も親しまれています。



名島火力発電所跡の碑

地元では、この船の船溜まりを「ダンベ」と呼んでいました。ダンベから名島城の内堀町へ抜ける水路があり、ここは発電所の用水池として利用



# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 武内神社と巻尾神社

森本 啓三

香椎宮本殿の両脇に、二つの摂社があります。摂社とは、神社の本社の神と関係が深い神を祭る神社のことです。

本殿左には、健康長寿・病気平癒・知恵向上・学業成就のご利益があるとされる、「武内神社」があります

「左写真」。

武内神社には、仲哀



天皇・神功皇后の重臣である、武内宿禰たけうちのすくねが祭られています。

宿禰は、香椎宮近くの不老水から湧き出る水を飲み、300歳の長寿を全うしたといわれ、長寿の神として信仰されています。

香椎宮内には、「応神天皇を抱いた武内宿禰」

「左写真」もありません。

また、本殿右には、勝負運向上・武芸上達のご利益があるとされる「巻尾神社」があります。



切妻造・平入りの社殿が特徴の巻尾神社

ここには、仲哀天皇・神功皇后に仕えた中臣なかのみ烏賊津大連命いかつおむじのみことが祭られています。

烏賊津は、神功皇后の神事をつかさどった重臣で、武芸に優れ、宮司家の一つである三苦家の祖先といわれています。

香椎宮を訪れた際には、本殿を守るように建つ二つの摂社にもぜひ注目してみてください。

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 「あずみ族」のルーツ『今宮神社』 城戸 重臣

「あずみ族」は、古代、漁業や水運、航海などに優れた技術を有する海洋民族で、古代志賀島を拠点に、日本全国に進出し、その名を各地に残しています。

その祖神は、古事記によると、海洋の神である綿津見三津と、その子・宇都志日金拆命であるといわれています。

志賀海神社の境内にある摂社の『今宮神社』には、拆命の他、安曇磯良丸も祭られています。磯良丸は干潮や満潮を自由自在に操ることができ

る霊力を持つ千珠萬珠を龍宮から授与され、神功皇后の三韓出兵に貢献しています。

志賀海神社で4月と11月に開催される「山ほめ祭」は、五穀豊穣と豊漁

を祈念する祭りで、県の無形民俗文化財に指定されています。

同神社本殿での祭典の後、今宮神社でもほの暗い社殿のなかで白装束の巫女が立ち並んで行われる祭りの様子は、とりわけ幻想的です。

志賀島を訪れた際には、今宮神社を訪ね、同神社にかかわる歴史に思いをはせてみませんか。



今宮神社



今宮神社の山ほめ祭

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 小さな砂嘴の「雁の巣鼻」

山田 次男

砂嘴とは、潮の流れによって、海岸の岬の先端などに堆積した土砂が鳥のくちばしのよ

うな形で海に突き出した地形のことです。その砂嘴が対岸や付近まで伸びた地形を砂州と呼びます。海の中道は、志賀島と本土を繋ぐ陸繋砂州で長さ約10km、最大幅約2kmの巨大な砂州です。先端は満潮時でも通行できるように、志賀島と橋で結ばれています。

また、平成14（2002）年に「海の中道大橋」も整備されました。雁の巣鼻は、現在までその形が保たれており、堆積した砂地に自生した植物が根付き、野鳥が羽を休める場所にもなっています。

平成6（1994）年以降、雁の巣向かいの和

白沖でアイランドシティのまちづくりが始まり、

新たなまちづくりとともに、豊かな自然も楽しめる空間となっています。

博多湾（内海）側の

大岳から西戸崎、雁の巣の4カ所で砂嘴が見られます。大岳から西戸崎の砂嘴は環境の変



現在は長さ約230m、最大幅約90mあります



# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 長塚節たかしの歌碑

奥永 茂晴

長塚節はII写真、明

治12（1879）年に茨城県岡田郡国生村（現在は常総市国生）に生まれました。当時の長塚家は、多数の水田や畑を保有し、農業経営を営む豪農でした。

節は、茨城尋常中学3年生の頃から不眠症に悩まされ、退学し、故郷に帰って自然に親しみながら作歌や旅をして健康回復に努めました。

その後、正岡子規の門下生として短歌を学び、短歌雑誌『アララギ』の創刊に携わりました。また、彼が執筆した長編小説『土』には、農民の生活が描かれ、これは農民文学を確立した作品といわれています。

執筆活動に励んでいましたが、明治44（1911）年に喉頭結核を患いました。夏目漱石の紹介を受け節は、九州大病院の名医・久保猪之吉の治療を受けるために九州にやってきました。

入院中も制作を続け、発表された『鍼はりの如く』には「しろがねのはりうつごととききりぎりすい

く夜をへなば 涼しかるらむ」という歌があります。この歌は入院中の夏の暑さや寝苦しさとしへの回帰を詠んだものです。懸命な治療を続けました

が、節は37歳という若さで亡くなりました。彼をしりんで、病院の歌愛好家によって昭和33（1958）年にこの歌を記した歌碑が九州大学医学部（馬出三丁目）構内に建てられています。



常総市教育委員会蔵

入院中も制作を続け、発表された『鍼はりの如く』には「しろがねのはりうつごととききりぎりすい



高さ約1メートルあります

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 馬出に残る「福岡市内線」跡

田原 昭子

馬出三・四丁目に広がる「馬出緑地」は、昭和54（1979）年に全線廃止された路面電車、「福岡市内線」の廢線路を利用して整備されました。

緑地内を通る536の緑道の端に、複数の小さな石柱が立っています。この石柱は、福岡市内線の敷地の境界を表したものです。石柱には、同路線を運行していた西日本鉄道株式会社（西鉄）の

馬出二丁目にある「馬出通り」バス停の乗降所は、一部が石畳になっています。ここは、かつて

当時の社章が刻まれている。このほかにも、馬出に付近の道路には、同じく敷地の境界を示す西鉄の社章が埋め込まれたものが残っています。

当時、市民の貴重な交通手段として福岡市内を走った路面電車、「福岡市内線」。その面影を探しながら、馬出の町を散策してみませんか。



馬出緑地公園内にひっそりと立つ石柱



停留所跡（右）と道路に埋まった西鉄の社章（左）



# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 松崎の三面地蔵と筑前竹槍一揆

平山 勲

松崎には三面地蔵といわれる石碑があり、す。「多々良川遭難者追悼の碑」Ⅱ写真Ⅱの通称で、明治初期の筑前竹槍一揆で犠牲となった政府の役人三人の慰霊碑です。

置県などの中央集権的な政府の改革と、大干ばつや米価暴騰が重なりました。このため、政府に不満を持つ農民など約10万人が立ち上がり、当時の国内最大級の一揆となりました。

筑前竹槍一揆は、旧筑前国（現在の福岡県

政府は、鎮庄のため、軍の出動を命じました。その頃、来県していた政

府（大蔵省）の役人三人で起きた暴動です。明治に入ってから以降、廃藩

府（大蔵省）の役人三人が、小倉から福岡に向かう中、一揆集団に捕まり、多々良川河畔で命を落としました。



三面地蔵が刻まれた多々良川遭難者追悼の碑

長は「近年まで、地域では、慰霊のための地蔵祭が行われていました。松崎地区の皆さんの優しさを感じます」と話しました。

近くまで来られたら、三面地蔵に立ち寄って、当時をしのんではいかがでしょうか。

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 西戸崎にあったアメリカの痕跡

加藤 徳生

西戸崎地区の約8割の区域は、昭和20（1945）年から昭和47（1972）年の27年間、太平洋戦争後アメリカ軍の施設「キャンプ・ハカタ」が置かれていました。街の景観はまるでアメリカそのものだったと言われています。

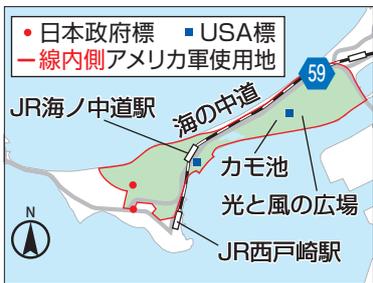
当時、この施設や区域は、日本政府がアメ

リカに対して使用を一時的に提供したものでした。そのため、地域を区別する目的で柵やフェンスを建設し、道路上の各所に境界標識や認識標が設置され、現在もその一部を見ることができま

す。表示内容は設置者・設置年・場所などによってまちまちですが、「日本

国」と示されたものは日

本の領域に設置され、「USA」と示されたものはアメリカ軍施設の水道管や電線などの埋設物の注意を促す標識として設置されたといわれています。現在、敷地は全て返還され、「雁の巣レクリエーションセンター」や「国立海の中道海浜公園」などとして市民に開放されています。



USA標



日本政府標

西戸崎の商店街では平成29（2017）年から、志賀商工会が中心となりシャッターアートなどによる町おこしを行っています。皆さんも絵を楽しみながら、当時のアメリカを感じ、この標識を探してみませんか。

## 東区歴史ガイドボランティア連絡会 歩・歩・歩(さんぽ)会

東区歴史ガイドボランティア連絡会(愛称：さんぽ会)は、東区の歴史と文化を学びながら、地域の魅力を広く伝えていくことを目的として活動しています。

さんぽ会の詳細についてはホームページをご覧ください。「東区歴史街道を行く」「東区歴史ガイドマップ」のPDFをダウンロードしていただけます。



さんぽ会ホームページ

東区さんぽ会



発行 福岡市東区企画振興課  
福岡市東区箱崎2丁目54-1  
2025(令和7)年3月